

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後くらぶひこばえ			
○保護者評価実施期間	2025年11月11日 ~ 2025年11月30日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26人	(回答者数)	17
○従業者評価実施期間	2025年11月11日 ~ 2025年11月30日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数)	8人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月16日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人ひとりをよく理解し、今だけでなく将来を見据えた支援を行っていること。 職員間での情報共有を丁寧に行い、チームで支援を行えるように心がけていること。	「遊び」の中で一人ひとりに応じた課題設定を行い、構造化や視覚支援なども用いながら、「わかる」「理解する」「やってみようと思う」を大切に支援を行っている。 職員間で話をする機会を多く設け、共通認識を持って支援を行うようにしている。	職員の支援する力を向上させることで、利用者の方への支援をより良いものにしていく。そのため、研修受講の機会やOJTを充実させていく。
2	保護者や家族への支援をきめ細やかに行うようにしていること。	保護者への支援について、面談だけでなく気軽に相談してもらえるよう、必要に応じて声をかけるなどしている。また放デイ以外の福祉サービスの紹介なども可能な範囲で行っている。 学校や相談支援事業所、他事業所とも連携を図っている。	保護者からの様々な相談に対応するため、福祉制度や福祉サービスなどについて知識を深めたり、他職種・他事業所との連携を強化していく。 保護者やきょうだいが気軽に参加できる会を継続して行う。
3	同じ敷地・建物内に地域コミュニティーセンターや児童館・学童保育があり、地域の人や放デイ以外の子どもたちと、ゆるくつながりながら過ごすことができること。	放デイの遊びの際に、学童保育の児童を誘って一緒に遊んだりすることもあるが、部屋を自由に行き来したり、日常生活の中でなんとなく一緒に過ごす時間があつたりと、設定された活動ではなく、いろいろな人がごちゃまぜに過ごせることを大切にしている。	引き続き、様々な人とふれあいながら過ごしたり、活動したりを繰り返し、地域の中で、障害のある人への理解を深めていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の支援スキル・障害についての理解などの知識に大きな幅があること。	利用者の年齢・障害種別、障害の程度などの幅が大きく、一人ひとりにあった支援を行うにはかなりの支援技術が必要である。職員の研修や指導に割く時間が圧倒的に足りず、個人の力量に任せてしまうことがある。	利用者の方の理解を深める時間(ケース検討)や、職員研修の機会を設けていく。 職員が自分から学ぶ意欲を持ち、チャレンジできる仕組み(研修時間の確保や自主研鑽のための研修費の一部負担)なども積極的に取り入れる。
2	情報発信が苦手。	災害時への備えや避難訓練、安全計画など取り組んでいることは多くあるが、保護者への周知や報告などが出来ていない状況である。 活動の様子なども、支援を優先して写真を撮る機会が少なく保護者への発信が不十分である。	職員の役割分担を明確にし、担当者が管理者と連携しながら、必要に応じた情報発信を行っていく。
3			